

(2011年8月号掲載)

群馬県における住宅リフォーム動向について

一般財団法人群馬経済研究所
主任研究員 伊勢 和広

～要 約～

1. 財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センターの推計によれば、本県のリフォーム市場は809億円となっている。総務省の「住宅・土地統計調査(08年)」からも相当数のリフォーム候補先が県内にあると考えられる。住宅リフォーム推進策として独自の補助金交付事業を行っている県内の地公体も増えている。
2. 県内の住宅リフォーム業者に対するヒアリングによれば、リフォームを行う顧客は主に50歳台、60歳台が中心であり、本格的な老後生活を迎える前に水回りや外装などに手を入れるケースが多い。また、リフォームの内容では、太陽光発電が補助金や余剰電力買取制度の導入で増加している。
3. 当研究所が県内住宅リフォーム業者を対象に実施したアンケート調査によれば、5年前と比較して売上高が増加した業者が4割強となり、今後についても「次第に増加する」と予想する企業が6割弱を占める。
4. リフォーム部位としては、トイレ、風呂・洗面所、キッチンといった「水まわりのリフォーム」や定期メンテナンスが必要な外壁が上位を占め、リフォームを行う理由としては、「劣化や壊れた部位の更新・修繕」が9割強を占めた。
5. 顧客がリフォームを相談した経緯としては、「口コミ、知人の紹介」と「新築時施工(以前にリフォーム施工)した業者だから」が圧倒的に多い。従って業者の側からすれば、リフォーム需要をつかむ最大の近道は、過去に施工した顧客への定期的訪問などのアフターサービスの充実であり、顧客の多様化するニーズに応えられる企画提案力の強化だと思われる。